

幕末外交儀礼の研究

欧米外交官たちの将軍拝謁

佐野真由子 著

2016年6月刊行予定

▶四六判・420頁／定価：本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1850-9

近代外交の夜明けは幕末に――。

日本と欧米の国との正式な外交関係は、安政4(1857)年、アメリカ総領事タウンSEND・ハリスの登城・将軍家定拝謁をもって幕を開けた。

本書が取り上げるのは、徳川幕府終焉まで計17例を数えた、欧米諸国の外交官による将軍拝謁。幕府は自らの儀礼伝統に則り、同時に西洋の慣習とも齟齬のない形で、その様式を完成させていた。

当時、対外関係の第一線にあった幕臣たちのその努力こそ、わが国が世界の舞台に立つための第一歩であった。政治交渉の過程とは異なる次元で展開した外交儀礼の形成過程は、従来の研究で見落とされてきた、もうひとつの幕末史である。

予定内容目次

序章

I 幕末外交儀礼の背景

第一章 徳川幕府の儀礼と対外関係

- 第一節 徳川幕府の殿中儀礼
- 第二節 朝鮮通信使迎接儀礼の実態
- 第三節 幕臣筒井政憲に見る外交経験の蓄積

第二章 欧米諸国の外交儀礼

- 第一節 外交実務に関する規範
- 第二節 非西洋地域への進出と儀礼観

II 幕末外交儀礼の展開

第三章 アメリカ総領事ハリスの将軍拝謁(安政四年)

- 第一節 ハリス謁見の実現経緯
- 第二節 ハリス登城の一日
(安政四年一〇月二一日)
- 第三節 まとめ――近世から近代への連続



駐日英国公使オールコックの将軍家定拝謁
Illustrated London News, 15, Dec. 1860

第四章 試行錯誤

- 第一節 オランダ、ロシア代表の
将軍拝謁(安政五年)
- 第二節 アメリカ公使ハリスの
将軍再拝謁(安政六年)とその後
- 第三節 まとめ――持続可能な外交へ

第五章 儀礼様式の成立

- 第一節 「永世不易の禮典」に基づく展開
- 第二節 安定実施への到達
- 第三節 まとめ――外交儀礼の定着と空白の意義

第六章 四カ国代表の将軍慶喜拝謁(慶応三年)

- 第一節 背景と準備
- 第二節 当日の大坂城
- 第三節 その後の展開
- 第四節 まとめ――幕末外交儀礼の新展開

終章――「対等外交」をもたらした幕末外交儀礼

参考文献目録
関係年表
索引

さの・まゆこ…1969年東京生まれ。ケンブリッジ大学国際関係論専攻MPhil課程修了。東京大学博士(学術)。現在、国際日本文化研究センター准教授。主な著書に『オールコックの江戸――初代英国公使が見た幕末日本』(中央公論新社、2003年)など。


思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	幕末外交儀礼の研究	本体5,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1850-9
お名前		tel		
		e-mail		
ご住所	〒			
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎			

本書HPのQRコード

※近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

▶A5判・480頁／本体9,800円(税別)

ISBN4-7842-0958-1

会沢正志斎書簡集

大阪大学会沢正志斎書簡研究会編

大阪大学大学院文学研究科が所蔵する会沢正志斎書簡を活字翻刻。本書簡群は、会沢が弟子や父に対して宛てた書簡を主とし、江戸に滞在していた寺門が水戸の会沢に対して定期的に府下の情報を送り続けた、その返答としての性格をもっている。緊迫する幕末情勢と、そのなかで行われた思想の営為を解明するための一級史料。

▶A5判・348頁／本体11,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1828-8

海国日本の夜明け

フォス美弥子編訳

オランダ海軍ファビウス駐留日誌

日本海軍創成の助言者であったオランダ海軍中佐G・ファビウスの、連続3度のべ8カ月間にわたる本邦初紹介の駐留日誌のほかその間の動向をつなぐ公文書を収録。長崎を舞台とした幕府や西南各藩との交流、英米艦隊との駆け引きなど幕末の日蘭史を明かす貴重な史料集。

▶A5判・400頁／本体5,000円(税別)

ISBN4-7842-1047-4

徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古編

19世紀アジアにおいて、日本が欧米列強の植民地にならず社会の近代化を達成しえた因は、徳川日本の文明史的力量にあったのか…。徳川社会はどのような力powerを、いかにして形成しえたのか、多分野の研究者の書き下ろし論文25本により総合的に究明する。

▶A5判・730頁／本体9,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1800-4

洋学史論考

佐藤昌介著

思文閣史学叢書

明治維新の胎動を準備した大槻玄沢・高野長英・小関三英・福沢諭吉・渡辺華山の諸業績の分析を通して洋学を受容と発展を解明し、あわせて近代化に果たした軍事の科学化と軍制改革・軍楽などを論じる。

▶A5判・410頁／本体7,800円(税別)

ISBN4-7842-0782-1

幕藩政アーカイブズの総合的研究

国文学研究資料館編

幕政・藩政文書それぞれの管理・伝来について具体的に検討し、各藩において文書管理の実務にあたったものたちへ焦点を当てることで、幕藩文書管理の歴史に新たな知見を示す。近世から近代へとつながるアーカイブズ研究にさらなる実証的研究を積み上げる、国文学研究資料館共同研究の成果。

▶A5判・504頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1798-4

明治維新史という冒険

青山忠正著

佛教大学鷹陵文化叢書18

かつて「明治維新」は国家の模範、「勤王の志士」は国民の規範であったが、それらは国家が創りあげた虚像である。その本当の顔は身近なところに潜んでおり、明治維新の真の姿を見つけ出す作業は、文字通り冒険なのである。平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介する。

▶46判・332頁／本体2,400円(税別)

ISBN978-4-7842-1394-8

明治維新期の政治文化

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究結果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書。

▶A5判・390頁／本体5,400円(税別)

ISBN4-7842-1262-0

幕末期の老中と情報

佐藤隆一著

水野忠精による風聞探索活動を中心に

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析することで、基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにする。敗者となった幕閣の政治活動にも一定の歴史的評価を与える。

▶A5判・520頁／本体9,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1702-1

戊辰内乱期の社会 佐幕と勤王のあいだ

宮間純一著

鳥羽・伏見の戦いで幕を開けた戊辰内乱は、否応なく当時の社会全体を巻き込んでゆく。みずからの拠るべき正当性を探し求める者、保身のために立場を翻す者、混乱に乗じて地位の上昇を図る者——、新出史料を活用しながらさまざまな思惑が交錯する内乱期の社会像を描出する。

▶A5判・328頁／本体7,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1829-5

西洋化の構造 黒船・武士・国家

園田英弘著

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。

【内容】「極東」の終焉 黒船前史／蒸気船ショックの構造／海防の世界／郡県の武士／森有礼研究／西洋化の論理／E・S・モースのニューイングランドにおける知的環境

▶A5判・380頁／本体7,500円(税別)

ISBN4-7842-0801-1

※一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1580-5

幕末・維新の西洋兵学と近代軍制

竹本知行著

大村益次郎とその継承者

幕末・維新の動きの中で、先人たちは国際環境に自らをどのように位置づけ、どのように西洋から兵学を受容し軍制を確立していったのか——。日本という近代国家形成と国民形成の推進に大きな役割を果たした軍隊の創設の軌跡を、大村益次郎とその遺志をついだ山田顕義らの動向にたどり、その政治史上の特性を探る。

▶A5判・340頁／本体6,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1770-0

岩倉具視関係史料 [全2巻]

佐々木克・藤井讓治・三澤純・谷川穰編

憲政資料室所蔵文書・対岳文庫所蔵文書・内閣文庫所蔵文書に次ぐ、第4の岩倉具視関係文書群を活字化。『岩倉公実記』編纂時に利用されたものの最も主要な部分で、東京奠都のいきさつや、他の史料集などで紹介されていない未刊行書簡や書類が多数。原本校正を綿密に行い、完全活字化。

▶A5判・総1108頁／本体24,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1659-8

幕末・維新を考える

原田敏一編

佛教大学鷹陵文化叢書2

【内容】近代への描き方—錦絵の世界(原田敏一)／近代への道—19世紀の東アジアと西ヨーロッパ(青山忠正)／明治維新と古代文化の復興(高木博志)／維新変革期の人間像—高杉晋作のことも(梅溪昇)／大久保利通の遺書(佐々木克)／史跡と人物を訪ねて(青山忠正)

▶46判・184頁／本体1,700円(税別)

ISBN4-7842-1038-5

日本近代化の諸相

梅溪昇著

第一部に概論として明治維新史研究の論稿2篇、第二部に初期条約改正・陸海軍・日清戦争などの個別研究9篇、第三部に但馬・尼崎・紀州地域における近代化の特質と様相をさぐる諸論文8篇、さらに史料1篇を収める。いずれも史料と先行研究を踏まえた緻密な論文で、「梅溪史学」の結晶をみることが出来る。図表多数収録。

▶A5判・650頁／本体15,000円(税別)

ISBN4-7842-0364-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。